



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(39) イ
ラモ

AUTHOR(S):

久保田, 信

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(39) イラモ. 紀伊民報 2011

ISSUE DATE:

2011-10-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180172>

RIGHT:

© 紀伊民報社

紀 伊 民 報

2011年(平成23年)10月26日 水曜日 第20728号 (10)

イラモ



野外から発見されにく
いイラモのクラゲ

イラモは浅い海底で
附着生活を送るが、最
初1個だった小さな個虫とい
う単位から出芽方式による無
性生殖を繰り返して、あちらこ
ちから芽を出して、それら
がつながったまま離れず大き
くなる。しかも体の外にキチ
ン質の鞘(さや)をつくり、
柔らかい体を保護する独特の
構造をしている。

雌雄は別で、雌は小さな体
ですぐに卵を産み、雄は精子
をいっぱい海中に放出する。
子孫であるプラヌラをつくる
ためだ。親クラゲは餌もまっ
たく取らず、有性生殖の役割
を終えたと、すぐに死んでし
まう。寿命はとても短く、雄
はポリプから海中に遊離する
ことさえない。

(京都大学准教授)

久保田 信

39



イラモと聞くと、何かの海
藻類と思うだろうがクラゲ世
代がある。画像は野外からは
めったに捕れないイラモのク
ラゲだ。田辺湾でプランクト

ンネットをひいて偶然入っ
た。
イラモは海底で着生生活を
するポリプが目立つ鉢クラゲ
の一種。うっかり触れでもす
ると無数の刺胞が発射され、
激痛が走り、その後は腫れ上
がってみみず腫れになる。も
っとひどい症状になる場合も
あるので注意が必要だ。

イラモが世界に知られたの
は、京都大学瀬戸臨海実験所
の始まりのころにさかのぼ
る。1936年、初代所長の
駒井卓先生が新種として記
載された。今でも実験
所年報のロゴマークと
して使われている。
田辺湾やその周辺には
イラモが多数生息して
いる。人の握り拳くら
いの大きさになるので
肉眼でも見つけやす
い。

不思議な特徴がもう一つあ
る。それはこの画像のクラゲ
だ。傘径は1ミリ足らずで鉢ク
ラゲ類の中では例外的に小さ
い。このためポリプの姿から
名前が付けられている。傘は
コスモスの花のようだ。8枚
の花びらのような構造で、8
個の感覚器もあるが、画像で
は縮んでいる。